

一、つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

終業式の前の日。長かった梅雨が明けた。

あたしは、青い水玉もようのプールバッグに、カエルの絵がプリントされた大きなバスタオルと、水着と水泳帽を入れて、¹いつもよりはいい気分の家を出た。転校して初めてのプール。体育の授業のある日と雨の日が、みごとなくらいに重なって、なかなかプールにはいれなかったのだ。

もともと水が大好きだから、水泳は得意だった。運動オチのあたしでも、幼稚園のころからスイミングスクールに通ったおかげで、クロールや平泳ぎもできるし、潜水も長くできる。プールサイドで準備運動しているあいだ、あたしは、はやく水にはいりたくてイライラした。

「では、まず、水慣れから始めます」

担任の吉田先生は、プールのへりに全員をすわらせ、ピツとホイッスルを吹いて、足を水につけるように、といった。ひんやりして気持ちよかったけど、背中がジリジリ熱いの、足だけなんて、ものすごくじれったかった。²ライトプールの水があたしを呼んでいた。水面にうつっている白い雲が、ゆらゆら形をかえて手まねきしているみたいに見えたその瞬間、先生の声が消えた。

キーンと、頭の中で音がする。

ひさしぶりの、快感、だった。

すばやく空気を吸って、ぎゅいん、ともぐる。

A 水中で目をあげると、みんなの足も、水の流れもよく見える。

キラキラ、ゆらゆら、キラキラ、ゆらゆら。

得意のドルフィンキックでもぐったまま泳ぎだした。途中で、ぐるん、と回転する。カエルみたいに、潜水平泳ぎもした。自由さが、たまらなかった。

けど、水面から顔をだしたら、吉田先生が真上で仁王立ちしていた。

「原口さん」

目が、こわかった。

「プールは安全が第一です。先生のいうことを守れない人は、見学してもらわなくちゃね」

あたしはプールサイドの黄色いベンチにすわらされた。みんなは胸まで水にはいって、ホイッスルの合図でいつせいに顔を水につけた。

頭も顔も運動神経もいいゆりちゃんがいちばん長く顔をつけていた。いつもゆりちゃんといっしょにいるまみちゃんが、おおげさに声をあげた。

「ゆりりん、すごいーい！」

B ふん。あたしのほうが、ホントは長くできるのにな。先生つてば、いつまであたしをすわらせておくんだろう。からだから、イライラが、あふれだしそうだった。バタ足もゆりちゃんがお手本だった。

「ゆりりん、うまいーい！」

まみちゃんが、パチパチ手をたたく。

「はい、では、いちど休憩します。みんな水からあがりなさい」

C a 金網にかけてあるバスタオルを、みんなが取りにいく。まみちゃんが、あたしのほうを見ながらいじわるそうに笑って、ゆりちゃんになにかをいった。ゆりちゃんが、ぷつと吹きだす。

パチン。頭の中で音がした。

あたしは、プールサイドに積んであったビート板を一枚つかんで、まみちゃんとゆりちゃんめがけて走りだしていた。うしろでヨシキが「原口やめろっ！」っていったのも、聞こえたんだけど、止まらなかった。

「先生！ 原口さんが！」

女子のだけれど、さげんだ。

「なによ！」

b あたしは、全身の力をビート板に集めて、思いっきり、まみちゃんの顔めがけてふりおろした。

「いたっ！」

「原口さん！」

吉田先生が走ってくる。ゆりちゃんが逃げる。まみちゃんは、両手で頭をおおってしゃがみこんだ。ヨシキがあたしの手から、

むりやりビート板をうばいとった。

左のほつぺたにすり傷のついたまみちゃんを目の前に、あたしは突っ立ったままだった。

「だれか保健室から氷もらってきて。原口さん、まず、どうするのかしら」

3 先生は、あたしをにらむように見おろしている。

「悪口、いわれたのに」

「悪口なんて、いつてません」

まみちゃんほうそつぎだ。

「こつち見て、笑ったくせに」

「そんなん、被害妄想とちがう？ ゆりりんとかオルのもようの話、しただけや」

c

「原口さん、とにかく、あやまりなさい」

「ご……ごめん」

やっと出たのは、アリみたいに小さな声だった。

D 「もっとちゃんと、心からあやまりなさい」

「ご……ごめんなさい」

涙が出た。くやしい。あたしはけつきよく最後まで、プールに入れてもらえなかった。

夕方、吉田先生が店からはいつてきて、夕飯のしたくをしていたばあちゃんを呼んだ。あたしは居間のかべに背中をくっつけてすわり、こっそり話を聞いた。先生は、プールでのことを説明しおえて、まみちゃんの家で電話をするようにと、電話番号のメモをわたし、それから、すこし声を落として、つけくわえた。

「あの、こういつてはなんですが、透子さんはちよつと、感情がゆたかすぎるといふか、きまりを守れないことがあります。親元をはなれていますから、しかたがないといつてしまえばそれまでですがね。もうすこし、おばあちゃんも、いいきかせるところはいきかせてもらいたい、と思いましてね……」

「はあ、どうも、申しわけありませんです」

ばあちゃんのしわがれた声がせつなかった。縁側のむこうで、水まきをしているじいちゃんの姿がじわつとにじむ。いつもなら、あたしも飛びだしていつて、いつしよに水をまいて虹をつくるのに、⁴そんな元氣は出なかった。

「ほんでも……先生、ひとつ、申しあげたいことがあります」

ばあちゃんは、夕焼け雲から降ってくるセミしぐれの中で、ポツポツとつづけた。

「透子は、親元をはなれているからああいふうなのではありませんです。たしかにあの子は、なにかのきっかけで急におこつたり泣いたり、みなさんと同じようにできなかったり、いばっているように見えたりします。でも、あとで落ちついてからそんな自分に気がついて、それはそれは、かわいそうなぐらい落ちこみますのや。どうか、そのへんのこともわかってやってくださると、透子は、うんとたすかります。あの子は、とても繊細で、つらいときがたくさんありますのや」

d

「はあ……」

吉田先生は、あいまいな返事をして帰った。

ばあちゃんは、電話のむこうにいるまみちゃんのおかあさんに、「申しわけございません」をくりかえした。電話にむかつて、べこべこ頭をさげながら。けど、受話器を置いて、あたしのほうにむきなおつたばあちゃんは、にっと銀歯を見せて笑った。

「気にせんでええ。トコちゃんは、まちがつとらんよ」

(森島いずみ『あの花火は消えない』による)

1. — 線部1「いつもよりはいいい気分の家を出た」のはなぜですか。つぎの文の□にあてはまるように、十字程度で説明しなさい。

今日は□から。

2. — 線部2「ライトブルーの水があたしを呼んでいた」について、つぎの(1)・(2)に答えなさい。

(1) ここで使われている表現技法は何ですか。最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア 倒置法 イ 省略法 ウ 擬人法 エ 反復法

(2) この表現には「あたし」(「透子」)のどのような気持ちが表れていますか。最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア えこひいきをする吉田先生の言うことなんか聞きたくない。

イ 少しでも早く水の中で泳ぎたい気持ちをおさえることができない。

ウ 小さいときから水泳を習っているため、得意な水泳をみんなに見せてやりたい。

エ ゆりちゃんよりも泳ぎがうまいことをまみちゃんに教えてやりたい。

3. □ a □ d □にあてはまる文として最も適当なものを選び、それぞれその符号で答えなさい。

ア ひゆるひゆると、涙が流れてひざ小僧に落ちた。

イ 怪獣でも見るようなまみちゃんの目に、ますます腹がたった。

ウ 先生はまゆ毛のあいだに縦じわをつくっていた。

エ 先生は完全にあたしを無視していた。

4. — 線部3に「悪口、いわれたのに」とありますが、このあとに省略されていることばを考え、二十五字程度で答えなさい。

5. — 線部4に「そんな元気は出なかった」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア 先生が、親元をはなれていることがきまりを守れない原因だと言ったことが悲しかったから。

イ ばあちゃんが先生に注意を受けているのに、じいちゃんは知らん顔をしているのを見てがっかりしたから。

ウ 昼間の学校での出来事を振り返って、自分がまみちゃんにけがをさせたことを反省していたから。

エ 自分のせいでばあちゃんが先生に注意されているのを聞いて、胸がしめつけられていたから。

6. ~~~~~ 線部A~Dの心情の組み合わせとして最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア A 快適 B 不満 C 逆上 D 屈辱

イ A 夢中 B 自信 C 冷静 D 不満

ウ A 安心 B 焦り C 屈辱 D 不快

エ A 爽快 B 我慢 C 不快 D 後悔

7. この文章の表現の特徴として最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア 昔の思い出を途中に入れることによって、親元をはなれてくらす「透子」の過去が明らかにされ、読者により親近感を持たせている。

イ 「青」「白」「黄色」という色彩を使うことで、夏という季節感だけでなく、「透子」の晴れ晴れとした気持ちを効果的に表現している。

ウ 「透子」の普段の態度に手を焼いている「吉田先生」と、「ばあちゃん」を対比的に描くことで、「透子」の学校での孤立した様子が暗に示されている。

エ 「透子」以外の登場人物の気持ちははっきりと描かれていないが、「透子」の視点から語られることによって「透子」の気持ちの変化は浮き彫りになっている。

二、つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現在、環境問題がさまざまに議論されています。一口に環境問題といっても、地球温暖化・オゾン層の破壊・熱帯林の減少・酸性雨・有機化合物や有毒金属による地球汚染など、多くの問題にわたっており、対策も個々の問題に応じて異なっています。逆に、原因はただ一つです。人間の諸活動が、環境問題を引き起こしているからです。地上に人類が現れて以来、地球環境は汚染され続けてきたと極論を言う人もいます。実際、人類の手で多くの種が絶滅させられました。しかし、人類も自然に生まれてきた生物の一つですから、その活動が環境に影響を与えるのは必然なのかもしれません。

ただ、人類は生産活動を行うという点で他の生物とは異なった存在であり、自然では作り得ない物質を生産し、その大量消費を行うようになったのも事実です。その結果、人類の活動が地球の環境が許容できる能力と匹敵するほどのレベルに達しており、自然では浄化しきれない人工化合物があふれ、新しい生命体を作る試みすらし始めています。人類は、意識しているかどうかは別として、環境を根本的に変えかねない事態を招いているのです。

かつては、「環境は無限」と考えられていました。つまり、環境の容量は人類の活動に比べて圧倒的に大きく、すべてを吸収処理してくれると思ってきたのです。だから、廃棄物を平気で海や空に捨て、森林を切り、海や湖を埋立て、ダムを造ってきました。しかし、環境が無限でないことを、さまざまな公害によって学んできました。また、陸にも海にも砂漠化が進み（海にも砂漠化が進み、海藻が枯れています）、自然の生産力が落ち始めています。確かに、このままの消費生活を続けると、地球の許容能力を越え、カストロフィー^{*}が起こるかもしれません。人類の未来は、環境問題の危機をいかに乗り切るにかかっていると、言っても過言ではないでしょう。二一世紀は、まさにこの課題に直面する時代となるに違いありません。

この環境問題の原因は、無責任に大量生産・大量消費の社会構造にしてしまった私たちの世代の責任であると考えています。自分たちは優雅で便利な生活を送りながら、その「借金」を子孫に押しつけているのですから。借金の最大の象徴は、原子力発電所から出る大量の放射性廃棄物でしょう。電気を使って生活を楽しんでいるのは私たちですが、害にしかならない放射性廃棄物を一万年にわたって管理し続けねばならないのは、私たちの子孫なのです。あるいは、熱帯林を切つて大量の安い紙を使っているのは私たちであり、表土が流されて不毛の地となってしまう大陸や島に生きねばならないのは子孫

たちなのです。³ 環境問題は、すべてこのような構造をもっています。この点を考えれば、せめて子孫たちの負担を少しでも軽くするような手だてを打っていかねばなりません。

この地球環境の危機に対し、「原始時代のような生活に戻れ」という主張をする人がいます。大量消費が原因なのですから、それをやめればよいという単純な発想です。しかし、それは正しいのでしょうか。いったん獲得した知識や能力を捨てて、原始時代の不安な生活に戻るものなのでしょうか。生産力の低い生活に戻れば、どれほど多くの餓死者が出るのでしょうか。はたして誰が、それを命じることができるのでしょうか。たぶん、答えは、そんな知恵のない単純なものではないと思います。なすべきことは、⁴ 現在の私たちの生き方を振り返り、いかなる価値観の変更に必要で、そのためには、科学がいかなる役目を果たすべきかを考えることではないでしょうか。

環境問題を引き起こした原因の一つは、現在の生産様式が自然の論理に合っていないことにあります。ある意味で、⁵ かんたんで楽なやり方しか採用してこなかったのです。

現在の生産方式の多くは、工場（プラント）を集中化し、巨大化した設備で大量生産を続けるという方法がとられています。その方が、生産効率が高く、省力化できる、つまり安上がりで大量に生産ができるという経済論理が優先されているのです。そのために、政府が基盤整備に投資を行い、それに合わせて輸送手段を集中し、都市へ人を集めるというふうに、社会構造まで含めて巨大化・集中化に邁進しています。その結果、少量ならば自然の力で浄化できるのに、大量に工業排出物を放出するため、海や空気の汚染を深刻化させたのです。

工場を分散させ、小規模施設とすることが、まず第一歩です。それでは生産力が落ちると反論されそうですが、小規模でも同じ生産力を保つ研究が必要なのです。そのヒントは、科学の技術化は、一通りだけではないという点にあります。むしろ、今までは大規模生産しか考えず、それに適した技術しか開発してこなかったといえるかもしれません。もうけるという経済論理が、科学技術の自身を決めてきた可能性があります。「自然にやさしい科学」とは、従来とは異なった、小規模でも高い生産性をもつ原理や技術の発見という意味を込めています。

また、巨大化・集中化は「画一化」につながっています。全国いたるところで、同じ物が売られ、同じテレビ番組が流れ、同じビルが建ち並んでいます。画一化された文化の中で、画一化された生活を送り、画一化された製品に囲まれている結果が、大量消費構造を支えているのです。それぞれが、独自の生活スタイルをとり、固有な文化を生き、独特の生産様式をつくり出す、という価値観の転換が必要だと思っています。そのような「多様性」の中で生きるためには、どのようにして太陽や

風や海流や地熱など自然のエネルギー利用を行うか、人工化合物でなく自然物を利用するかなど、やはり「環境にやさしい科学」が望まれることになるのです。

その可能性は、エレクトロニクス技術による「マイクロマシン」という、生物が採用している生体反応を利用するのに似た方式にあるかもしれません。虫は、あんなに小さな体なのに、実に精巧な機能をもっています。蚊は、一センチにもならない体であるにもかかわらず、獲物を探すための三種のセンサー（二酸化炭素用、人の呼吸、赤外線用、人の体温、乳酸用、人の汗）、毛細血管の位置を探る超音波センサー、皮膚に穴を開けるノコギリ状のパイプと鋭い針の二重構造からなる口吻、針の先端部が血管で止まるように血漿を検知するセンサーをもっています。もし、私たちが、これだけの機能をもつ機械を作ろうと思えば、非常に巨大でエネルギーを使う機械となってしまうでしょう。ところが、蚊は、それを見事に作り上げているのです。マイクロマシンは、そのような小型でエネルギーをあまり使わない生物機械を実現することをめざしています。ヒントは、電気エネルギーを使って機械を動かすのではなく、生体反応をもっと利用することにあります。

また、原子一個一個を制御するナノテクノロジーも、新しい工学機械の可能性を拓くかもしれません。マイクロマシンやナノテクノロジーなどから、大量生産・大量消費とは異なった論理で生きる社会をめざす必要があると考えています。

電気エネルギーはクリーンで取り扱いやすいので、今や何もかも電気で動く機械が作られています。ここでも「電気エネルギーを電気エネルギーへ変え、再び電気エネルギーを熱やモーターの運動に変えるという、二段階の変換を行っています。エネルギーを変換するたびにロスがあり、本来使えるエネルギーの半分程度しか使っていません。また、原子力発電所は危険なので都市から離れた遠隔地に建設されており、長い距離を送電するための送電線や鉄塔などの設備建設が必要だし、送電中のロスもあります。しかし、現在の生産体制は電気エネルギー利用を前提として組み立てられており、それに適した技術しか開発されなかったのです。「自然にやさしい科学」とは、電気エネルギー一辺倒から、自然に密着したエネルギー利用の科学への転換を意味しています。

（池内了『科学の考え方・学び方』による）

（注） *カタストロフィー…大惨事。

*エレクトロニクス技術…電子のはたらきを役立てる技術。

*ナノテクノロジー…原子や分子を扱うきわめて細かい技術。

*ロス…むだにすること。

1. には、同じことばが入ります。最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア すなわち イ ところで ウ 例えば エ それゆえ

2. 線部1に「人類は……事実です」とありますが、これについて説明したつぎの文章の にあてはまることばを指定字数で抜き出さない。

環境について、人類は ① 【二字】 であると考え、 ② 【四字】 や大量消費をしていた。しかし、③ 【二字】 が起こり、人間の活動が地球の ④ 【四字】 を越えてしまったことを知った。その結果、いままでの考えを改めることとなった。

3. 線部2「この課題」の指示する内容を十六字で抜き出さない。

4. 線部3に「環境問題は、すべてこのような構造をもっています」とありますが、「このような構造」とはどういうものですか。「構造」となるように四十字以内で説明しなさい。

5. 線部4に「現在の私たちの……果たすべきか」とありますが、筆者は科学の果たす役目として、どのような例をあげていますか。「をすること」となるように三十字でさがし、初めと終わりの五字をそれぞれ抜き出さない。

6. — 線部5に「かんたんで楽なやり方」とありますが、どのようなやり方ですか。「ゝやり方」となるように二十九字でがし、初めと終わりの五字をそれぞれ抜き出しなさい。

7. — 線部6に「価値観の転換が必要だと思います」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを選び、その符号で答えなさい。

ア 人々が一人ひとりの個性をいかさずに、同じような生活をしてしまっているから。
イ 人々が同じような文化の中で生活をしていることが環境問題の原因となっているから。
ウ 大量消費構造から抜け出さない限り、多様性のある社会にはならないから。
エ いままでの経済論理は合理的だが、都市への集中化を招いてしまっているから。

8. — 線部7「その可能性」について説明したつぎの文の にあてはまることばを指定字数で抜き出しなさい。

人類が ① 【三字】 の中で生きるために、 ② 【七字】 したり、 ③ 【十二字】 の可能性を模索したりする必要があるということ。

9. にあてはまることばを三字で抜き出しなさい。

三、つぎの①～⑤の — 線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- ① 助力を惜しまない。 ② 臨時閣議で新たな政策について決定した。 ③ 事の始終を明らかにする。
④ 勇気を奮って注意をした。 ⑤ 彼に任せれば公平に裁いてくれる。

四、つぎの①～⑤の — 線部のカタカナを、漢字で書きなさい。

- ① テレビで商品のセンデンをする。 ② 彼が今回の優勝コウホだ。 ③ 去年は学級委員長をツトめた。
④ もう一度案をネリ直す。 ⑤ 先生が毎月学級新聞をスって配布する。

京華中学校 入学試験

国語解答用紙

得点合計	四	三	9	8	7	6	5	4	3	2	二	1	7	6	5	4	3	2	一

国語	四	三	9	8	7	6	5	4	3	2	二	1	5	4	3	2	一
学 校 名	①	①		③ ①		初め	初め			①					a	(1)	
立																	
小学校	②	②								②					b	(2)	
受 験 番 号	③	③													c		
氏 名	(めた					)	)			③					d		
(ふりがな)	④	④								④							
	(り	(って															
	⑤	⑤															
	(って	(いて															

構造

やり方

をすること。

から。